

「近所のみなさん、こんにちは。こちらは、日本共産党 支部（後援会）です。」

ただいまからこの場所をおかりして、政策の訴えをさせていただきます。しばらくの間、「協力をする」をお願いします。

みなさん。

小泉内閣は、今国会に、医療制度「改革」法案を提出し成立をねらっていますが、とんでもないことです。この法案が、私たち国民に新たな負担増をおしつけ、公的医療制度の土台をこわす重大な内容になっているのを「存じ」でしょうか。

政府の医療法案は、第1に、窓口での負担が増え、保険料は引き上げられ、病床をへらすため病院からおいだすなど、私たち国民から医療そのものを「つぶす」ものです。

現役世代なみに所得のある、七〇才以上のおとしよりは、今年の十月から窓口負担を二割から三割に引き上げる、また、入院や手術で医療費が高額になった際の患者負担が増える、人工透析の毎月の負担も一定所得以上の人は二倍に増えるなど、高齢者や重症の患者さんに情け容赦ない負担増と医療の切り捨てがすすめられるといつ「非情な」ものです。

第2に、保険でかかれる医療を切り縮め、公的医療制度の土台をもこわしてしまいます。

昨年十二月の政府「与党の合意」にもとづき、「保険証一枚」でかかれる医療を切り縮め、保険がきかず全額患者負担の医療を大幅に拡大し、高い医療費を払えない人は、満足な治療もつけられないという方向に、日本の医療のあり方そのものをかえてしまおうといつのです。

さらに、財界は、今後、風邪などの「軽い病気」の治療は保険の対象外にし、全部自己負担にすることを「ねらっている」のです。

保険証をもって病院にいくとも、「重い病気」は保険で間に合わない、「軽い病気」には保険がきかない…「こんな医療にされては、たまったものではありません。」

この背景には何があるのでしょうか。それは、「自分たちの保険料負担を減らしたい」といつ日本の大企業・財界と、日本の医療を新たなもつけ口にしようとならっているアメリカの保険会社、医療業界の強い要求があるのです。今、アメリカ系の保険会社などの「民間の保険に入れば安心」といつテレビCMが目立ちます。今後、保険外診療を増やし、窓口負担を重くして公的保険だけでは安心できないといつと「ころに国民をおいたてて、自分たちの新しいもつけ口にしようといつのです。とんでもありません。」

日本共産党は、医療改悪ストップの「緊急アピール」を発表しました。だれもが安心してつけられる公的医療制度のため直しのため、第1に窓口負担の引き上げに反対し、引き下げを求めます。第2に保険診療が可能な医療を狭めるのではなく、充実させます。第3に、削減されてきた国庫負担を計画的に元に戻します。その財源は、庶民増税ではなく、大型の公共事業などのむだづかいをやめ、史上最高にもつけを上げている大企業・大産家に応分の負担を求めます。「人の命も力次第」にしてしまつ医療大改悪をやめさせるために、ともに力をあわせましよう。日本共産党は、安心の医療を守るために全力をつくします。

二月九日、さいたまスーパーアリーナには、医療改悪、庶民増税を許さないと、全国から一万四千人の人々がつごうなど、全国で医療改悪をはねかえそうといつ人々の運動が広がっています。明るい未来をきりひらくためにがんばる人々の姿を報道する、日本共産党のしんぶん赤旗をぜひおよみくださるようお願いします。「この場所からの政策の訴えをおわらせていただきます。ご協力ありがとつごういしました。」